HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	中国「新農村建設」による集落再編と居住環境の質的改善に関する研究［論文内容及び審査の要旨］
Author(s)	王, 穎楠
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(工学)
Dissertation Number	甲第11946号
Issue Date	2015-06-30
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/59701
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/
Type	doctoral thesis
File Information	Yingnan_WANG_review.pdf, 審査の要旨

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称　博士 (工学)　　氏名　王 穎楠

審査担当者　主　査　教　授　森 傑
副　査　教　授　瀬戸口 剛
副　査　准教授　小澤 丈夫

学位論文題名

中国「新農村建設」による集落再編と居住環境の質的改善に関する研究
(A Study of Village Reconstruction and Qualitative Improvement of the Residential Environment by New Rural Policies in China)

本研究は、中国「社会主義新農村建設」による集落再編という背景のもと、中国で最も農業が盛んな河南省における集落再整備のモデルの一つである「尚庄新村」事業を取り上げ、集落再編前後における現地調査を経年的に実施し、農村居住環境が変化する過程と課題を詳細に分析・解明することで、現状の計画を検証するとともに、将来の居住環境の質的向上に資する農村再編の具体的方策を見出すことを目的としている。

第 1 章「序論」では、課題の提示と研究の目的、動機と意義、方法について論述するとともに、主題に関する既往研究について概括し、本研究の位置づけを行っている。

第 2 章では、「社会主義新農村建設」の政策およびその整備手法を検証し、実施上の課題を指摘している。計画主体と建設主体の連携不足による計画内容と施工内容の不整合について指摘し、失地農民への補償や持続的生業への転換などの将来的な生活の持続性に関わる問題を明らかにしている。

第 3 章では、再編直前の農村住宅の居住実態について分析している。住宅の空間構成要素や平面配置において、再編前の住宅は伝統的な農村住宅の特徴を維持しているが、室機能と室利用を中心に生業変化と生活様式の近代化が既に進んでいることを指摘している。

第 4 章では、再編前後の住宅における居住実態の比較分析を行っている。1) 再編前の伝統的農村住宅の合院様式に対して、再編後は個室の確保や住宅設備において水準が改善されたこと、2) 再編後の住宅平面計画およびその利用状況には、公私空間が区別される傾向があること、3) 再編前に庭でみられた家事や接客、近隣住民との会話などは、再編後の庭面積の減少に伴い、それらの機能の一部が喪失していることを明らかにしている。

第 5 章では、再編後の居住実態の変容過程を分析している。「先行入居住戸」の大半は再編前に個室の確保が困難であった多世代世帯であり、世代別の空間利用に限界があること示している。また、入居直後と一年後との比較では、室利用が頻繁に変更されており、世帯構成や世帯成員の年齢層などに応じて住要求の多様性がより一層現れていることを指摘している。

第 6 章では、再編前後における集落空間の変容に着目し、住宅外部空間と集落空間利用の実態を分析している。その結果、1) 再編前後の集落において、住宅外部の路地や集落空間は居住者間の交流において重要な場所として利用されていること、2) 居住者のコミュニティ行為は、人の通行量や場所の幅員および環境の整備状況と密接に関係していること、3) 再編前の集落では一部の交差点が

小広場となり日常的な集い空間として居住者に利用されていた一方で、再編後の運動場など特定のオープンスペースの整備がコミュニティ形成に寄与していないこと、を明らかにしている。

第 7 章では、再編前後における世帯内および近隣との人間関係の状況を把握し、居住環境との関連を分析している。再編前後の家族生活について、生活変容動向の特徴が世帯主の若年化、個人生活の重視、地元回帰、接客と日常生活との一致、を指摘している。近隣との人間関係については、集落の大半が親戚関係を持つといった農村地域特有の密接なつきあいを維持している一方で、再編後の集落配置や住宅形態の変化により、近隣付き合いの範囲が大幅に縮小し、付き合いの程度も浅くなったことを明らかにしている。それを踏まえ、再編により生業構造が変容し農村部と都市部に渡る広域での生活が浸透するに従い、農村地域において各世帯間の格差が拡大していることを論じている。

第 8 章では、各章の分析を踏まえ、集落再編にかかる居住環境の質的改善へ向けての提言を述べている。具体的には、①居住水準を確保する過程において、新農村の住宅計画には、画一的な平面住戸型の採用ではなく、農村地域の特徴と住まいの変容に相応しい標準設計を導入すること、②伝統的な集落において育まれてきた密接な人間関係の再構築過程において、現代社会に適応する相互扶助と社会的つながりに配慮した公共空間を計画すること、③従来の生活や文化を継承しつつ、再編過程やその後の状況変化に対応できるような事業システムを導入すること、を提案している。

これを要するに、本論文は、中国において急速に再編整備が進む「社会主義新農村建設」の居住環境の実態についての実証的な分析とその計画手法の質的改善へ向けての学術的・技術的な方策についての新しい知見を得るものであり、建築計画学および農村計画学に対して学術的な開拓として貢献するところ大なるものがある。

よって著者は、北海道大学博士 (工学) の学位を授与される資格あるものと認める。